

# 「無」から「形」を 産み出すことが強み

## 「設計から製品まで、良品質を短納期」が自慢

(株)城南

うめナヒ vol.1-2

（柳城南（大田区東六郷、木村俊雄  
社長、03・3731・5675）

は、昭和22年8月設立以来、「お客様  
のニーズに具体的な形でご提案  
し、開発そして量産化へのスピー  
ドアップに貢献すること」を経営  
理念とし、発電所や「超伝導極低温  
試験装置」、大型プラントの試験装  
置の開発・製造を行っている。

21世紀は「環境の世紀」と言われ  
ている。同社は、お客様の良きパー  
トナーとして、常に時代のニーズ  
に柔軟に対応し、堅実な成長と発  
展を目指し、技術力を磨き、品質の  
向上に努めるとともに、環境に配  
慮した事業経営を積極的に推進す  
ることにより、お客様の信頼と満  
足の向上を目指している。

設計開発、成型、樹脂・金属加工、  
組立てと、モノづくりには欠かせな  
い製造工程がずらりと揃う同社は  
まさに「モノづくりのショールウイ  
ンド」と言える。社内一貫生産体制  
を活かして、同社は、北大や防衛大  
学を始めとする各大学、JAXA、  
産業技術総合研究所、理化学研究

所、電力中央研  
究所や大手重電  
メーカーと、数  
多くの共同プロ  
ジェクトを手掛  
けている。実際、  
今年2月に、日  
本経済新聞に掲載  
された、大手  
電機メーカー発  
表による小型水  
力発電装置は、

同社が設計開発したものである。

「当社では、設計担当者が自分で  
開発した製品は自分で組み立てる  
ことが多い。これは製品の組み立  
てを通して問題点を把握し、より  
良い設計を行うための大事な作業  
であり、そのため、設計者は技術部  
と生産工場、組立室を度々往復し  
ている。また、生産担当者は、3D  
データの作成とMC加工機の使用を  
自ら行い、より早く、綺麗な製品  
を加工するためのノウハウの蓄積  
に努めている」と木村社長。

「わが社はマンスリーデリバ  
リーをしていきます。社長がそう  
言うように、同社では設計から製  
品の工程を1ヵ月でこなし、「無」  
から「形」を産み出すことこそ、同  
社の大きな付加価値となってい  
る。

今後の展望について木村社長に  
聞いたところ、「国内生産が縮小  
するとともに、日本では設計開発  
に関わる技術者も減っている。こ  
んな時こそ大田区の町工場の腕の  
見せどころです」と力強く語る。



「無」から「形」を産み出すことがわが社の強み」と木村社長